

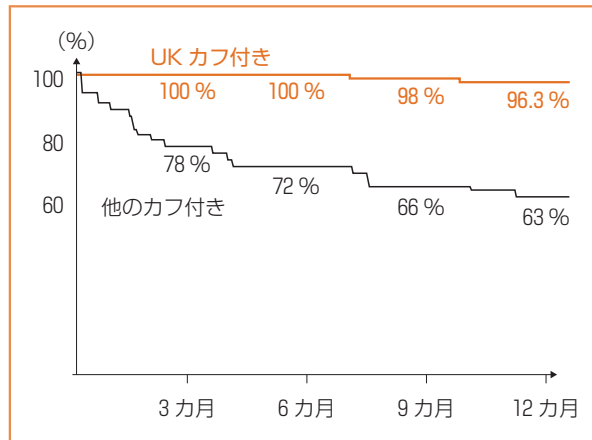


図2 カフ型カテーテルの累積二次開存率

〈動脈表在化の開存率〉

動脈表在化の開存率は室谷らによると1年94.2%，3年84.7%，5年78.1%と良好である²⁾。松田らによる報告でも1年94.1%，3年87.4%，5年87.4%と良好であった¹¹⁾。

4

カフ型カテーテル

1) カフ型カテーテルの留置

カフ型カテーテルは右内頸静脈からの留置が第一選択であり，セルジンガー法を用いて留置する（図1d）。長期に使うためにはまず清潔操作が第一である。そのためにはマキシマムプリコーションで，かつ清潔な環境下で留置を行う必要がある。

2) カフ型カテーテルの開存率

最近われわれは新規のカフ型カテーテルを使う機会を得たが，その UK カ

ワンポイント

アドバイス



同一部位の穿刺（ボタンホール穿刺）はシャントを長持ちさせるのでしょうか。また，適応条件はなんですか？

通常，穿刺は毎回シャントの部位を変えて行うのが創の治癒機転から見ると望ましい。しかし時には耐えられないほどの穿刺部痛を訴える症例もある。このような症例で穿刺痛がペンレス[®]テープなどで軽減されない場合，ボタンホール穿刺が行われることがある。ボタンホール穿刺は同一部位を穿刺することになるが出血や感染の可能性がありうると思われ，それらに留意して選択される一つの方法であろう。それらが解決されれば通常の内シャントと同等度にシャントが長持ちする可能性もある。（久木田和丘）